

紀 晶仁「観光地における、住民と事業者間の利益衝突の解消のために何が必要か」

筆者の関心の出発点は、観光地で観光客が住民や自然といかに共存できるか？にありました。筆者の故郷近くにある宮島では、住民と観光客が特に対立せずうまく共存できているようだが、富士山では世界遺産登録後に観光客が急増し、それに伴ってごみが増えるなどの環境問題も顕在化しました。観光地で共存できるケースと共存できないケースの違いはどこにあるのだろうか、という問題関心です。

実際、筆者が調べてみると、観光地では様々な問題が生じていることが分かりましたが、それらの問題をどう交通整理して、解決策を見出せばよいのかという壁に当たりました。

筆者は観光地で生じている問題を、都市計画の不備を原因とした問題と、観光客個人の行動を原因とした問題に大別しました。さらに、観光客個人の行動を原因とした問題の一例として、「海の家」における観光客のマナー問題を事例に挙げて、なぜそうした問題が起きたのか、誰がどのような対策をしたのか、その対策にはどのような欠陥があったのかを分析しています。

観光客個人の行動が原因であっても、単に個々の観光客が心がければよいというだけでは問題は解決せず、自治体、企業（海の家経営者や業界団体）、地元住民などのステークホルダーが議論して解決策を合意し実行しないと効果がありません。

地域の課題解決のための“公共圏”をいかに形成するかという課題は重要ですが、実はあまり議論も研究もされてきませんでした。その意味では、この論文は先駆的な研究の意義があると思います。

筆者は、海の家組合に訪問してインタビューし、事例に取り上げた由比ヶ浜で起きている問題と対策の経緯を把握することができました。新聞やインターネットなどで既に公開されている二次情報だけに頼ってはいられない貴重な発見でした。

とはいえ今回は、様々なステークホルダーのうち、海の家関係者だけにインタビューして結論を導いたため、見解の偏りが生じている恐れもありますが、その偏りを是正する研究が後に続いてくれることを期待しています。